

長かった冬が終わり、やっと春の兆しが阿蘇にも訪れました。暖かな日差しを受けて心が浮き立つ反面、まだ冷たい風を感じながらいよいよ今シーズンも始まるぞ！という身の引き締まる思いでいます。花粉症の皆さんにとっても「いよいよか…」という季節ですね。今年は花粉の量が例年より多いとか。どうぞお大事になさってください。



さて今回は重要なお知らせとお願いからのスタートです。実はあまり嬉しいお話しではありませんが、我が家のお米を召し上がってくださっている皆さんとは是非とも共有し、そしてお力やお知恵をお借りしたいと思っておりますので、ご一読頂ければ幸いです。



農家にとって「作業効率の向上」は常に課題です。農家数が減っていますから、少ない人数で広い田畑で作物をつくり続けるためには、機械の導入が欠かせません。昔ながらの小さな田畑や狭い畦道のままだと、機械で作業するのが難しいですから、農道や田畑をできる限り広く、効率的な形（主に四角く）にするための「圃場（ほじょう）整備事業」というものが戦後ずっと全国で進められてきました。そのおかげで農家は肉体的にはず

いぶん負担が軽くなりましたし（その分借金が増えていたりしますが…）、安定的に農産物を供給することができるようになりました。しかしその反面、画一的な整備によって、生物多様性や「日本昔話」に出てくるような農村風景が姿を消してきました。

私がよく通信に風景の写真を載せていますので、O2ファームのある「中郷（ちゅうごう）」という集落ののどかな美しさは、既にご存知の皆さんも多いのではないかと思います。しかしこの集落の皆さんにとって、圃場整備は長年の悲願。数年前に下流の方から工事が始まり、5年ほどかけて工事を毎年すすめてきています。この工事が計画通りに実施されると、私たちが愛してやまない、この変化に富んだ地形が変化してしまいます。土木工事をしないと水路や道路の老朽化が年々深刻なものになり、水不足や事故の危険性も高まる。でも画一的な整備のために「失う価値」の大きさも重々分かっている。「環境技術」と言われる分野は日進月歩で進化しています。効率化もしつつ、生態系や風景を壊さない技術や工法だってあるはず！という思いで、見直しができるかを考え、訴え続けていました。しかし、私たちの集落で若手の後継者は私たちだけ。土地の権利を持っている方の中には、ご高齢の方や、住まわれていない方もおり、やっとの思いで合意の取れた計画の見直しに乗り出そうという賛同者は現れませんでした。



2年前に私が「世界農業遺産」の認定をめざす活動に取り組み始めた背景には、このような状



況がありました。内側から変えることの限界にぶつかっていたので、だったら外側からならどうだ、と思ったわけです。幸い、民間の呼びかけで始まったこの動きに、県が本気になって取り組み始め、阿蘇地域は国連の機関から「世界農業遺産」に認定されました。そして我が家周辺の田園風景は、その認定をきっかけに、「次世代に残したい地域資源」として登録されました。世界から価値を認められたことになったのです。

集落の方々も誇らし気にここの美しさを自慢するようになりました。が、そのことと、「事業計画を見直す」というのは全く別のことでした。この集落の皆さんにとって、もう何十年も心待ちにしていた工事だからです。県庁の職員さんも、幾度となく足を運んで下さり、変化に富んだこの風景の価値をお話しして下さいました。皆さんは嬉しそうに頷きました。でも工事を遅らせたり見直したりすることは選択肢に入ってきませんでした。そうこうするうちに、とうとう今年の秋からは我が家の周辺が姿を変える順番となりました。

さあ、どうするか。思い通りに事が運ばなかったからと言って農業を辞めたり、ここを離れたりするのはあまりに大人気無い気がする。でも、集落の皆さんが待ち望んでいた工事に真っ向から「反対」をしようとは思はない。というわけでして、どうぞ皆さん、お知恵とお力をお貸しください。工事に反対して、事業そのものを中止したいわけではないのです。でも、「安さ」と「目先の効率性」を優先したこれまで通りの計画をそのまま実施してしまったら、いま皆さんがお米と共に楽しんで下さっている風景や、間接的に享受している生物多様性が変わってしまいます。農作業の効率化も実現しながら、この昔ながらの風景や生き物たちを残すには！？皆さまからの具体的なアドバイスやご提案がありましたら、ぜひぜひ通信欄やメール、または直接お電話にてご教授頂けますよう、よろしくお願いいたします。



毎年3月には阿蘇名物のタカナ漬けをお届けしていたのですが、今年は阿蘇山の噴火による降灰の影響もあり、全体的に生育が悪く、例年通りにはタカナの収穫ができない状況です。どうかご了承下さい。この形状の田んぼでつくるのは最後になるかもしれないシーズンが始まります。

目下、堆肥の準備をしたり、水路にたまった土を掻き出したり、育苗用のハウスを建て直したりしています。阿蘇の春の風物詩ともなっている「野焼き」も各地で行われています。どうぞ皆さま、お元気でお過ごしください！

